

## 第4章 文化財の保存と活用に関する将来像・基本的な方向性

### 1.文化財や歴史文化に対する市民意識の調査

2章で取り上げたように、本市には多様な文化財が存在していることが、これまでの調査などによって明らかとなっています。また、3章では、それらの文化財が生み出されてきた背景には、「富士のふもとで」という言葉をいなく、多様な特徴を持つ歴史文化があることを指摘しました。

本計画の作成にあたり、こうした文化財や歴史文化に対して、本市に住む人々がどのようなイメージや考えを有しているのかを把握するため、満18歳以上80歳未満の市民3,000人を対象とした世論調査、本市の文化財や歴史文化に関連したテーマを設けて実施した市民歴史講座の参加者を対象としたアンケート調査、文化財や歴史文化を活用した取組を検討するワークショップの参加者を対象としたアンケート調査、市内26地区のまちづくり協議会の役員等を対象としたアンケート調査および聞き取り調査等を実施し、以下のような結果が明らかとなりました。

#### (1) 令和3年度世論調査

調査対象：富士市在住の満18歳以上80歳未満の市民3,000人

調査期間：令和3(2021)年6月14日～7月5日

回収数：1,707人(56.9%)

#### 調査概要

<p><b>①文化財に対するイメージ（複数回答）</b></p> <p>全体の約60%が文化財は「富士市の歴史を語るものであり、市民の宝物」と考えているが、その一方で、全体の約40%が「大切ではあるが、身近に感じないもの」と考えている。また、全体の約30%が「行政が守るべきもの」と考えていることが明らかとなった。さらに、文化財に対して「具体的なイメージを持つことができない」と答えた人々が一定数（約8%）存在していた。</p>
<p><b>②興味を持っている文化財や歴史文化（複数回答）</b></p> <p>「歴史のある建物、古墳」、「古くからある寺、神社」に興味を持つ割合が全体の50%を超え、次いで、「古い町並み、道」、「地域のまつり、伝統芸能」に興味を持つ割合が全体の30%を超えていた。また、設問に示したそれ以外の文化財や歴史文化の多くも、全体の約20%～30%を占めており、幅広い対象に興味を抱いている状況が明らかとなった。</p>
<p><b>③文化財や歴史文化の保存・活用の方向性（複数回答）</b></p> <p>全体の約55%が文化財や歴史文化の保存・活用の方向性として、「歴史文化の次世代の継承」を求めており、次いで、約39%が「みんながまちを好きになるように歴史文化を活用し、郷土愛を育む」ことを求めている。また、「日常生活に寄り添った活用」とともに、「観光振興などによるぎわいの創出」、「文化財の知名度向上によるまちのブランド化」を挙げた人々が20%を超えており、一定数の人々が、日常的な活用とともに、外部からの誘客につながるような活動を求めている状況が明らかとなった。一方で、「現状のまま保存していく」ことを求める割合が約13%となっており、一定数の人々が活用だけではない方向性を求めていることが明らかとなった。</p>

富士市の文化財や歴史文化の中で、好きなもの・他の地域の人々に自慢できるもの

キーワード	延べ件数
富士山	281
かぐや姫	63
雁堤	32
湧水	32
公園	29
広見公園	29
博物館	26
製紙	25
田子の浦港	22
茶畑	21
しらす	16
駿河湾	13
富士川	13
公共施設	11
偉人	9
吉原祇園祭	9
源平合戦	6
祭り	6
食文化	6
東海道	6
ディアナ号の錨	5
岳南電車	5
神社仏閣	5
曾我兄弟	5
伝承	5
かりがね祭り	4
一里塚	4

キーワード	延べ件数
ディアナ号	3
岩本山	3
吉原宿	3
古墳	3
古谿荘	3
左富士	3
茶	3
富士まつり	3
サクラエビ	2
バラ	2
穏やかな気候	2
岩淵鳥居講	2
祇園祭	2
漁業	2
工場夜景	2
自然環境	2
実相寺	2
石造物	2
大棚の滝	2
竹採塚	2
伝統芸能	2
毘沙門天大祭	2
富士サンバ	2
富士塚	2
万葉歌碑	2
歴史	2

※この表は、記述内容をキーワードで分類し、2件以上カウントしたものについて、件数の多い順に記載したものである。複数のキーワードを含む記述があるため、件数は延べ件数となっている。

## (2) 市民歴史講座参加者のアンケート

調査対象：令和3(2021)年度市民歴史講座参加者 63名

調査日：令和3(2021)年7月1日

### 調査概要

<p><b>①文化財に対するイメージ（複数回答）</b></p>
<p>世論調査の結果と同様に、半数以上が文化財は「富士市の歴史を語るものであり、市民の宝物」と考えていることが明らかとなった。また、文化財は「所有者が守るべきもの」と考えている割合が10%に満たないことに対して、「行政が守るべきもの」と考える割合は30%を超えており、文化財の保存に関しては、行政に対する期待が高い状況が明らかとなった。</p>
<p><b>②興味を持っている文化財や歴史文化（複数回答）</b></p>
<p>「歴史のある建物、古墳」、「古くからある寺、神社」に興味を持つ割合が全体の50%を超え、次いで、「古い町並み、道」、「道端で見かけるお地蔵様、石碑」、「古文書や文献」、「地域のまつり、伝統芸能」、「民話、言い伝え」に興味を持つ割合が全体の30%を超えており、世論調査の結果と比べると幅広い分野に対する興味が高い状況が明らかとなった。</p>
<p><b>③文化財や歴史文化の保存・活用の方向性（複数回答）</b></p>
<p>世論調査の結果と同様に、全体の約55%が文化財や歴史文化の保存・活用の方向性として、「歴史文化の次世代の継承」を求めており、次いで、約42%が「みんながまちを好きになりように歴史文化を活用し、郷土愛を育む」ことを求めている。また、「観光振興などによる賑わいの創出」とともに、「地区ごとの特色を活かしたまちづくり」を挙げた人々が20%を超えており、一定数の人々が、地域の特徴を活かしながら、外部からの誘客につながるような活動を求めている状況が明らかとなった。一方で、「現状のまま保存していく」ことを求める割合が約15%となっており、一定数の人々が活用だけではない方向性を求めていることが明らかとなった。</p>
<p><b>④興味のある文化財の保存・活用に関する活動（複数回答）</b></p>
<p>市が主催する歴史講座の参加者の30%以上の人々が興味を持っている活動として、「文化財や歴史文化に関する調査研究」、「文化財の案内ボランティア」、「文化財の保護活動」があげられた。また、20%以上の人々が、「考古資料や古文書の資料整理」、「発掘調査」、「展示補助」といった活動に興味を持っており、保存・活用に関する幅広い活動に参画してもらうことにつながっていく環境が存在していることが明らかとなった。</p>

### (3) ワークショップ参加者を対象としたアンケートおよび ワークショップで示された取組案

調査対象：「富士市の歴史文化をいかそう！まもろう！ワークショップ」参加者 23 名

調査日：令和 3(2021)年 6 月 19 日

#### ①アンケート調査概要

<b>ワークショップに参加した理由</b>
本ワークショップの参加者について、無回答とその他 2 名以外の全員が、文化財の保存・活用に関する取組を既に地域でおこなっている方や、文化財の保存・活用に興味関心がある方などであった。
<b>ワークショップの時間</b>
約 74%の参加者がちょうどよいと感じていたが、一部の参加者は短い、または長い、と感じていた。また、内容についての自由回答で、「やり方がよくわからなかった」と答えた参加者もいた。
<b>アクションプラン（措置）への取組意欲</b>
全体の約 90%が取組に意欲を示した一方、そのうちの約 30%の参加者は、実際にと組をおこなう上では不安が残ると回答している。
<b>今後の文化財の保存・活用への携わり方</b>
文化財の保存・活用への関り方について、最も意欲が寄せられたのは、「文化財や歴史文化に関する調査研究」であり、その次に「文化財を活用したイベントの企画・運営・実施」が続いた。
<b>文化財担当部局に求めること</b>
最も多くの参加者から指摘されたのは、情報発信の必要性である。そのほか、相談窓口の設置や予算の確保に関する意見など、具体的に取組を行う上で必要なことへの意見が多く寄せられた。
<b>富士市の文化財の保存・活用に関する意見や感想</b>
情報発信や今後の具体的な取組に関するもののほか、今後の文化財の保存・活用に関わる体制への意見や、現場にアドバイスが欲しいといった意見が寄せられた。

#### ②ワークショップで示された取組案

	取組	具体的な内容
1	地域の歴史文化を学ぶ段階的学習カリキュラムの学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育における地域文化財の段階的継続的学習</li> <li>・学び続けるカリキュラム作り</li> <li>・地域への誇りを育む教師の側の研修</li> </ul>
2	文化財の保存・活用に関わる団体のネットワーク形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財の保存・活用を目指す団体同士のネットワーク化を図る。</li> </ul>
3	歴史文化を身近に感じられるイベントを行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり協議会と連携した文化財啓発活動</li> <li>・従来のイベントとは違った視点で考える</li> </ul>
4	駅にインフォメーションセンターを設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財を観光資源として生かし、地域振興に貢献する</li> </ul>
5	行政と住民の橋渡し役「文化財委員（仮）」の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財委員（仮）は、地域で文化財の保存・活用に関わる住民と住民の悩みや要望を受け取る行政との橋渡し役を担う。</li> </ul>

	取組	具体的な内容
6	各団体の取組発表会（富士学園祭）の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内各団体の活動・取組を知る場・PRする場</li> <li>次世代につなげていくためのメンバー「勧誘」の場</li> <li>吉永地区での取組活動や松野地区（かるたの取組）での取組活動も知らない人も多く、もっと市民に知ってもらいたい。知らせていきたい。</li> </ul>
7	歴史を伝えるかるたの作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域学習、子どもを巻き込むために、歴史かるたを作成する。</li> </ul>
8	富士の文化をマンガ化して配信し、カプセルトイを作成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンガ配信して小学生中心に伝えていく（マンガ本として親しみやすく表現して文化や文化財を伝えていく）（キャラクターがアニメになるとさらに人気が出て訪れる人も増える【聖地巡礼】）</li> <li>市内文化財をガチャガチャにしてPRする</li> </ul>
9	富士塚から富士山頂までのビュースポットツアー	<ul style="list-style-type: none"> <li>海拔0m（富士塚）から海拔3776m（富士山頂）の全ての高さで富士山を感じられるという富士市の特長と、昔から人々が眺め、様々な絵にしてきた富士山を、「0m地点からの富士山」という形で楽しめるビュースポットツアーを造成する。</li> </ul>
10	ドローンを活用したツアー	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外からのアクセスを見込み、ドローン撮影などでの疑似富士登山など富士塚～山頂まで、ビュースポットツアーを行う。</li> </ul>
11	富士市が舞台となったアニメやドラマの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財及び地域の歴史、景観（富士ビュー、工場夜景など）日本独特のアニメ聖地巡礼、人気ドラマの舞台、プラタモリ、大河ドラマなどの誘致などが考えられる。</li> </ul>
12	観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>アプリ連動から飲食店で使用できるクーポン（〇〇文化財探索コースの周辺飲食店など）</li> <li>海外からのアクセスを見込み、ドローン撮影などでの疑似富士登山など富士塚～山頂まで、ビュースポットツアーを行う。</li> <li>製紙工程見学など、市内の企業と連携を行う</li> </ul>
13	製紙の歴史文化に触れる「紙の日」の制定	<ul style="list-style-type: none"> <li>「紙のまち富士」としての地域内外の認知向上のために、紙の日の策定</li> <li>製紙についての勉強や、エコ活動（紙を大切にする）、植樹体験、など1日を通して、紙についての体験型の勉強を行う。</li> </ul>
14	地区の歴史を紙芝居で小学生など若い世代に伝える	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学4～6年生を対象に出前授業を行う。</li> <li>小学生向けに開催することで、親や家族を連れてくることをねらう。</li> </ul>
15	富士市内で生産されるトイレットペーパーで富士市をPRする	<ul style="list-style-type: none"> <li>トイレットペーパー包装紙コレクター（やくみつる氏）のコレクションや林製紙のユニークな取り組みなどを生かした展示会の開催。</li> <li>やく氏がコレクションしているトイレットペーパーの包装紙を展示し、テーマ別（富士山や自然、特産・地域性が高いもの、デザイン性が高いもの）に展示する他、やく氏コメント等も掲示する。</li> <li>映像資料も積極的に活用する。</li> <li>林製紙の取り組みとして、過去の特色あるトイレットペーパー並びにその包装紙の展示や作成工程の映像を投影する。</li> <li>鈴木光司氏やさかなくんも映像を通して登場する。</li> <li>その他、面白い取り組みをしている企業等があれば特集する。</li> <li>各企業での産業遺産の展示（王子エフテックスのレンガ倉庫の写真等）</li> <li>市内の家庭紙製紙企業等の所在地や生産している紙製品の内容等の紹介を行う。</li> <li>今後の博物館の展示品として、出展者の意向があれば、貸与・贈与等交渉も行う。</li> </ul>
16	須津地区の歴史文化に関する情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区外、富士市以外からの人々が来ることで地元の人たちが良さを再認識することもできるので、情報を広く発信していく。</li> </ul>

	取組	具体的な内容
17	住民参加型の地域の文化財の調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の街道や寺社仏閣、歴史的建造物、名勝等の調査</li> <li>・地域にある歴史的文化財の研究。伝統ある行事を小中高校生を巻き込み、地域ぐるみで行い年に何回か発信する。</li> <li>・まちづくりセンター内に地域の専門員を置き、調査の成果の研究発表を行い、その魅力を発信し、年に1回集大成の発表を行い県内外へのPRや他地域からの見学会も行う。</li> <li>・方言、アクセントとイントネーションの収集</li> <li>・地域に伝わる昔ばなしや物語の収集と文章化</li> </ul>
8	ストーリーを活かしたウォーキングコースの設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストーリーごとにウォーキングコースを設定する。</li> <li>・一万歩コースのリニューアルを行う。</li> <li>・コース内にある文化財を説明できるボランティアガイドを設置する</li> </ul>
19	古谿荘の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古谿荘が一般公開されるまでは、古谿荘の写真や、AR・VRなどのデジタルを活用する。</li> <li>・現代アートと結び付け、生け花等の現代アートの展示会を行う。</li> </ul>
20	富士市アプリの作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPへアクセスする人は少ないため、アプリを作る。</li> <li>・おすすめ通知が来た方が閲覧数は増えるため、おすすめ通知が来る設定にする。</li> <li>・文化財群のマッピングやスタンプラリー（ポケモンGOのようなイメージ）</li> <li>・投げ銭やクラウドファンディングするためのプラットフォームづくりで文化財の保存・活用への寄付を募る。</li> <li>・ふるさと返礼品として、体験型のコンテンツを用意する。（例：SNS、投げ銭、体感型返礼品）</li> <li>・取組を継続させるため、外貨を稼ぐ仕組みとして提供する。</li> <li>・市内の飲食店で利用できるクーポンを配信する。</li> <li>・音声ガイド／外国語案内／時代毎街並み／漫画連動／ゲーム連動／飲食店連動／GPS／AR／VR／QRコード</li> </ul>
21	古墳ロードスタンプラリーの継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既往事業である古墳ロードスタンプラリーを継続</li> </ul>
22	子供たちの地域探検ツアーの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校と協力し、子どもたちの地域探検ツアーを実施。</li> <li>・ツアーのコースは関連文化財群を活用する。</li> </ul>
23	フォトスポットになりうる景観の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アマチュアカメラマンや鉄道ファンを巻き込んだイベントの開催</li> <li>・撮影に適した場所のマップ作製や環境整備</li> <li>・岳南鉄道や海からの富士山や工場群夜景の撮影等の場や宿泊先、食事場所等の提供</li> <li>・富士山が見える港付近等に、レストランや宿泊施設誘致</li> <li>・新幹線の車窓等から、富士市をPRする掲示、モニュメント等の設置（景観を損ねないもの）。</li> <li>・映画・ドラマ等のロケ地斡旋・紹介、観光パンフレット掲載等</li> </ul>
24	富士の文化をマンガ化し配信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンガ配信して小学生中心に伝える。キャラクターがアニメになると、聖地巡礼等でさらに人気が出て訪れる人も増える。</li> </ul>
25	市内小中学生による富士市観光大使 youtuber の養成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富士市観光大使として、市内の小中学生に youtube に歴史文化について投稿してもらう。</li> </ul>
26	過去の文化財や昔のくらし、風景をARで再現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今は形がなくなってしまった文化財や文化（昔の暮らしなど）、地形などを、ARで再現して次世代に継承する。</li> <li>・観光資源としても活用できる。</li> </ul>
27	歴史文化を多くの人に発信するオンラインイベントを実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉原、鷹岡、富士川など各地域歴史文化の継承を目的に、各地域の文化自慢を Youtube 上で議論する。</li> <li>・例えば、富士市地域王決定戦を行い、富士市外の人の認知向上、若年層に向けた地域理解の向上をねらう。</li> </ul>

	取組	具体的な内容
28	食を通じた富士市の歴史文化のPR	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ブランドとして、食の魅力を伝える G1 認証の田子浦しらすや釜揚げしらすのほか、ほうじ茶、凛茶、つけナポリタンがあげられる。</li> <li>・「食」という視点を通して富士市の文化を理解、発信していく。</li> </ul>
29	文化財のデジタルアーカイブ化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財の測量、データの保存を行う。</li> <li>・文化財貸与事業を推進し、人々が文化財に触れられる機会を増やす。</li> <li>・データを活かしてまちづくりの様々な取組に活かす。</li> </ul>

#### (4) 市内 26 地区のまちづくり協議会の役員等を対象とした アンケート調査および聞き取り調査

調査対象：市内 26 地区のまちづくり協議会等

調査期間：令和 2 (2020) 年 10 月 15 日～11 月 20 日（アンケート）

令和 2 (2020) 年 11 月 30 日～12 月 17 日（聞き取り）

アンケート回収数：33 件（1 地区で複数件の回答あり）

聞き取り実施数：10 件（富士山観光交流ビューロー、富士商工会議所含む）

#### ○アンケート調査および聞き取り調査概要

文化財の保存や管理に関すること
<input type="checkbox"/> 文化財の所在、説明を示す看板等の設置が必要 <input type="checkbox"/> 劣化や管理不足の文化財が存在する <input type="checkbox"/> 開発によって失われた、または失われる可能性のある文化財が存在する <input type="checkbox"/> 文化財調査、または再調査が必要 <input type="checkbox"/> 文化財が私有地にあるため、市民が気軽に関わることができない <input type="checkbox"/> 看板以外に文化財について知る手段がない
文化財継承の担い手について
<input type="checkbox"/> 担い手不足により文化財の維持管理が難しい <input type="checkbox"/> 高齢化が進むことによる文化財の継承への懸念がある <input type="checkbox"/> 子供会の活動が少ない <input type="checkbox"/> 若い担い手の育成、若手の不足に苦慮している <input type="checkbox"/> 住民の歴史や文化に対する理解、関心度が低い <input type="checkbox"/> 祭の運営についての分担ができず、一つの団体への負担が大きい <input type="checkbox"/> 祭の参加者が少ない <input type="checkbox"/> 祭が排他的である
<input type="checkbox"/> 文化財に関する情報発信が不足している <input type="checkbox"/> 史跡と公園の一体整備や文化財に親しみやすい場の整備が必要 <input type="checkbox"/> 地域の歴史文化に関する組織、学びの場の設置が必要 <input type="checkbox"/> 子供たちの歴史文化へのふれあいが必要 <input type="checkbox"/> 住民の関心を高める機会が必要

## 2. 文化財の保存と活用に関する将来像と方向性

本市の文化財に関するアンケート調査の結果、多くの市民が、文化財は本市の歴史や文化を語るものであり、市民の宝物であると考えていることが明らかとなりました。それとともに、本市の文化財の将来的な方向性として、次世代に確実に継承することが最も重要であると考えていることも指摘できます。さらに、こうした文化財は郷土愛の醸成にとって重要な価値を有するものであるとともに、まちづくりや観光振興などに活かしていくことが求められていることが各種調査の結果に示されています。

また、世論調査等の調査において、本市の文化財の中で、好きなものや、他の地域の人々に自慢できるものを自由に挙げてもらった結果、多くの市民が富士山そのものを挙げており、本市の人々にとって、富士山およびその周辺の文化財は欠かすことのできない存在となっていることがうかがえます。

そこで、本計画では、「富士のふもとで「文化財」と生きるまちを創る」という将来像を掲げ、文化財を守りながら、その価値を損なうことなく多様な分野で活用し、次の世代に伝えていくことを目指します。

また、ここで掲げた将来像を目指すためには、文化財を守り、活かすことができる適切な体制が必要であるとともに、活用の前提となる調査や保存のための取組が求められていることが、上記の調査や、関連計画および既存調査の整理などから明らかとなっています。

こうした体制の整備と、調査や保存が実現することで、それぞれの地域における文化財の活用を通じたまちづくり、さらには市外、あるいは国外からの来訪者の増加につながり、本計画の目的でもある、将来にわたって住み続けたいまち、訪れたいまちの実現が可能になるといえます。そこで、本計画では、以下の三つの方向性を掲げ、目指す将来像のための多様な方針に基づいた施策を推進します。

なお、上記の方向性に基づく施策と取組（措置）を推進するにあたっては、市民（本市に在住・在勤のみならず、本市の文化財に興味をもつ市外の人々）、所有者、団体（文化財に関係する団体や組織、文化財の保存や活用に取り組む団体、事業者等）、学識者、行政（文化財所管課、関係課、静岡県、国）といった、多様な主体者が参画します。また、各種事業の財源については、市費の他、県費、国費（文化財補助金や地方創生推進交付金など）などをあてることとし、また、民間資金などの活用に加え、事業者との協働やクラウドファンディング等の財源調達方法の検討も進めます。



## [将来像]

  
**一富士のふもとで「文化財」と生きるまちを創る一****方向性1 文化財を守り、活かす体制を作る**

- 方針1 行政と市民・団体との連携体制の構築
- 方針2 行政内部および関係機関による推進体制の構築

**方向性2 文化財を知り、未来へつなぐ**

- 方針1 各分野の調査による文化財の把握
- 方針2 調査成果による文化財の適切な評価
- 方針3 文化財の内容・特徴・地域性に応じた保存
- 方針4 文化財を犯罪や災害から守るための体制や制度の充実

**方向性3 文化財を地域で活かし、発信する**

- 方針1 文化財を地域の資源として観光・産業等に活用することで、地域経済の活性化につなげる
- 方針2 文化財を核とする地域コミュニティを形成し、まちづくりのコンテンツとして活用する
- 方針3 文化財を地域教育の柱として、学校教育や社会教育で活かす
- 方針4 従来の方法に加えて ICT の活用による市内外への文化財の情報発信方法を確立する
- 方針5 各地区に文化財の保存・活用の地域拠点を設ける
- 方針6 文化財の保存・活用の拠点の一つとして、博物館のさらなる充実を図る



